

[10_1] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :
10(1)

<https://doi.org/10.15017/18289>

出版情報 : 図書館情報. 10 (1), pp.1-6, 1974-01-25. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



研究活動と情報活動

松浦良平

研究と情報は密接不可分の関係にあることはいうまでもない。あるいは同体といったほうが適切かも知れない。あるテーマについて研究をはじめようとするれば、まずそのテーマに関する情報を集めて検討し、研究方針とその進め方を確立して研究にとりかかる。研究を進める途中でも、絶えず文献を参照してゆかなければならない。そして、研究ができ上ったら、その成果は新しい情報として提供されるわけである。このようにして、情報量は増大の一途をたどることになる。したがって、情報の検索、分析がいかに有効、適確、迅速に行なわれるかが研究の成果を支配するといっても過言ではない。最近のように情報量が莫大になってくると、この情報処理の問題がまた大きな研究テーマになってくる。

たとえば、化学の領域でいえば、新しく合成され、また発見されてゆく化合物の数は年々増加し、現在では総数優に300万を突破した。そのおのおのについて製法、性質、反応などの研究報告が附随する。したがって情報量はこの数倍ないし数十倍になる。物質自身に関する情報のほかに、実験方法、装置と操作、理論等の諸情報がまた数多くつくり出される。このような莫大な文献を抄録したのが Chemical Abstracts であるが、これの検索が大変な仕事となり、圧倒されんばかりの姿になってきた。そこでこの情報処理をいかにするかの研究が進められ、電算機処理を旨としたシステム化がアメリカに生れた。これが CAS (ケミカルアブストラクツサービス) である。このような情報処理のシステム化は、化学の領域だけに限らない。医学の領域では、電算機化された文献検索システムとして、アメリカ国立医学図書館の MEDLARS (医学文献分析検索システム) がある。

わが国でも当然この方向の情報処理活動が要望され、一部現に進められつつあるが、全国的ネットワークとしてはまだこれからの問題である。科学技術情報懇談会は諮問に答えて、昨年8月に、科学技術情報の全国的流通体制 (NIST) の整備に関する中間報告を科学技術庁長官に提出した。その基本方針を要約すると

1) NIST は、その利用者の要求が十分反映されるものとなるようその整備を進める。この場合、NIST は直接的には科学者、技術者が対象となるが、広く学生や一般市民等にも利用されるよう考慮する。

2) NIST の整備にあたっては、科学技術情報流通の円滑化をはかるために、各種情報機関を個々に整備するだけでなく、有機的に結合させ、効率のよい流通システムとなりうるよう整備する。

3) 既存の科学技術情報流通機関を積極的に活用すると共に、必要性に応じて新機関を設置する。

4) 科学技術情報は、公共性が大きく、しかもその円滑な流通をはかるためには、多額の資金を必要とするので、国の資金の積極的な投入が必要である。

5) 科学技術情報は本質的に国際性を有するものであり、国際的協力についても十分考慮する必要がある。

以上のような基本方針のもとに、具体的には、総合センター、専門センター、データセンター、

地域サービスセンター、その他の機構を整備し、情報生産者、情報専門家、および情報利用者が、情報流通の線に乗って、それぞれその目的を十分果し得るようにすることが要望されている。もちろん機構整備だけで研究者の手許に有効、適確、迅速に情報が提供される保証はないが、真に豊かな研究土壌が育成され、研究活動が活潑に推進されてゆく上に、情報活動はその基盤を与えるものということができる。

今後大学図書館の学術情報センターとしての機能の拡充強化はますます必要になり、全国的ネットワークの中で、迅速、適確に情報処理が行いえるよう整備してゆかなければならない。ここでは、理工系、生物医農系を含めた科学技術の情報を中心に記述したが、人文社会系でも同様であり、九大の中央図書館に主題別資料センター（古文書部、判例法規センター、地域研究資料センター等）を付設することが、将来計画の中にうち出されている。

（まつら・りょうへい：図書館長）

本学教官著作寄贈図書

<産業労働研究所図書室>

秀村 選三（経済学部教授）

筑豊石炭産業史年表 昭48 西口本文化協会 ￥8,000

井上 祐司（法学部教授）

行為無価値と過失犯論（井上 祐司著）昭48 成文堂 ￥2,400

争議禁止と可罰違法論（井上 祐司著）昭48 成文堂 ￥1,400

具島 兼三郎（名誉教授）

近代日本外交小史（具島 兼三郎著）昭47 評論社 ￥800

現代のファシズム（具島 兼三郎著）昭47 青木書店 ￥350

東アジアの国際政治（具島 兼三郎著）昭46 評論社 ￥1,200

<農学部図書室>

筑紫 春生（農学部教授）

Chikushi, Haruo.

Genes and genetical stocks of the silkworm.

Tokyo, Keigaku Pub. Co. 1972

￥1,900

<経済学部図書室>

高木 幸二郎（経済学部教授）

再生産と産業循環（高木幸二郎教授還暦記念論文集）昭48 ミネルヴァ書房
非売品

秀村 選三（経済学部教授）

筑豊石炭産業史年表 昭48 西口本文化協会 ￥8,000

<中央図書館>

秀村 選三（経済学部教授）

筑豊石炭産業史年表 昭48 西口本文化協会 ￥8,000

資料紹介

全国国立大学所蔵貴重図書目録

(広島大学附属図書館 昭48.3. 442p. 26cm)

全国国立大学に所蔵される、いわゆる貴重図書は、その内容においてもまたその数においても、実にただならざるものがある筈であり、それぞれに特別な注意をもって丁寧に取扱われている。これらのものが貴重であるということは、それだけ研究資料としてもまた重要であることを物語るものとも言い得るわけで、その利用を希う研究者も少なくないものと思われる。

このたび、そうした利用者の希望に応えるものとして、その内容や所在を知ることのできる「全国国立大学所蔵貴重図書目録」が刊行された。

この目録は、中国四国地区大学図書館協議会の発議として、第18回国立大学図書館協議会(s.46.6 於岩手大学)において審議の上、広島大学附属図書館によって編集刊行されたものである。序文に「従来まとまった形の文庫・集書等については、所蔵の大学から冊子目録として刊行され、あるいはなんらかの形で紹介されていることは周知のとおりである。だが、文庫等に含まれない個々の貴重書扱いの資料については、必ずしも文庫等のようにはまとめて目録化されるに至らず、したがって、研究者の間に、このようなものに対する潜在的な要求がたねにあったといってもよい。この目録は……(中略)……そのような要求にこたえるものとしてまとめられたものといえよう。」と述べてあるとおり、内容は I. 貴重図書目録 II. 文庫・集書一覧 III. 貴重図書指定基準の3部に分れ、I. は〇〇文庫、△△集書と称される以外の正に個々の貴重書の詳しい目録であり、242pを数え本書の中核をなす。II. は大学別の、それぞれの文庫・集書と名づけられるものについて、文庫名・旧蔵者・主題・数量・冊子目録の有無を、III. は各大学が貴重図書指定基準をもっているか否か、持っているものについては、その全文を掲げている。

いまま少しく、この目録によってみると、例えば、北海道大学所蔵の文庫はその数24、そのうち「知里文庫」は、知里真志保(1909—1961)の旧蔵にかかるアイヌ言語学、民俗学の資料1,600点よりなり、冊子目録は未刊である。小樽商科大学には Gustave Schelle (1845—1927) 旧蔵の「シェル文庫」があり、ケネー (François Quesnay) の全著作、ケネーに関する研究書1,269冊を内容とし、冊子目録として、“Catalogue de la bibliotheque du professeur Gustave Shelle” が1962年に刊行されている。化学関係資料5,471点を擁する「旧徳山海軍燃料廠移管図書」が山口大学に所蔵されている。冊子目録未刊。長崎大学所蔵の「日本西部および南部魚類図譜(グラバー図譜)」810点は、大正から昭和にかけて約30年間の長崎市の魚市に水揚げされた魚を故倉場富三郎氏(英名Tommy A. Glover)が4人の画家に依頼して写生させたものである。この図譜は全5巻として出版されることとなっており、昭和48年3月その第1巻が刊行された。琉球大学には6つの文庫があり、そのうちの鳥袋源七旧蔵の「源七文庫」は、沖縄関係資料115点より成り、「琉球郷土資料目録 改訂増補版」(1966刊)をもっている。

また、個々の貴重書についてみれば、東京大学に「御成敗式目」の原典写本あるいは注釈書が、慶長12年(1607)のものから、年を追って近く明治年間のものまで、実に無慮1,000冊が所蔵されているのに驚かされる。同大学所蔵の「鷗外文庫」に江戸期の武鑑が多数含まれていることは有名であるが、この武家法御成敗式目が、かくも多数所蔵されていることを知り得るのも、この目録によればこそではないであろうか。

この目録は、中央図書館レファレンス・ルームに配架されている。

故 中 野 国 治 氏 の こ と

西 村 健 次

中野さんが忽然とこの世を去られたのは1月2日のことである。偶然あの異変にかかわりをもった因縁もありその日のことども思い出しながら中野さんの冥福をお祈りしたい。

あの日終日家に居た私は、夕方やや早目に夕食を済ませたところへ中野さんの奥さんから電話がかかってきて次のことを告げられた。「今夜の宿直は主人だが今朝山芋(白然薯)掘りに行くといって8時頃家を出たまま帰らない。当直交代時間を過ぎた今もまだ帰らないのは何かが起っているとしか思えないから、今夜の宿直を誰かに頼んでほしい」とのことであった。この連絡を受けたとき幾つかの状況を想像した。道迷い、転落、転倒、道具類での負傷等。すでに夜に入ろうとしている。状況は判らないまま不吉な予感がした。取るものも取り敢えず登庁し宿直についた。宿直交代後は奥さんと連絡をとり合いながら消息を待たしたが、地元の警察や消防団員の協力の甲斐もなく判明しないとのことであった。幾時かたってけたたましい電話のベルで仮眠から目覚めた。午前2時25分、相手は予期したとおり奥さんの声で「やっと探しました、山に倒れていました、でももう死んでいました」と、一気に告げ終えられた最後の一語に、堪え難くも堪えねばならぬ悲痛な心の叫びが感じられ、応ずる声も声にならなかった。老少不定は世の常とはいいいながら、人一倍頑健で男丈夫な体軀と明朗快活な性格の持主であった中野さんの前に、あの忌わしい「死」が待ち構えていたなんて信じようとしても信じることができなかった。半信半疑夜明けを待って自宅にかけつけたが、確かに中野さんはもうこの世の人ではなかった。本のぎっしり詰った本棚の前に浴衣姿もいたいたしく横わり、その顔には白い布が覆ってあった。「中野さん」と呼びかけても見向きもしなければならずきもしない一つの「物」でしかない屍と変わり果ててしまっていた。中野さんは享年43才の男盛り。家庭には最愛の奥さんと長女りえちゃん(10才)次女泉ちゃん(4才)の家族4人で最も平和に、一番充実感に満ちた生活が営まれていた筈なのに、なぜ中野さんだけがこのように厳しく苛酷な運命にさいなまれなければならないのか、世の無情に憤りさえ覚えたのだった。

中野さんは性、豪放磊落、進取の氣に富み、薩摩に郷里をもつ典型的薩摩男であった。恵まれた体軀と強い精神力で志すものには全力をもって当り、手を染むれば必ずやり遂げねば止まぬ不屈の根性で総てをものした。長男の身、志すことあって故郷出水の生家を弟さんに譲って出郷し、昭和25年九大教養部分館に職を奉じて永眠に至るまで一貫して図書館業務に精進してこられた。司書職として語学の必要性を感じれば、西南大学に学び、昭和42年医学図書館に籍移ればその分野の特殊性に意欲を燃やし慶応大学図書館に研修を積むなど、たゆまぬ精進に努力を惜まれなかった。職場にあってはその豊かな知識と経験による高度な技能を広く後輩の指導育成に役立たせるなどその指導的水準は抜群のものがあつた。また一方学外にあっては日本医学図書館協会の司書職群の中にあつて、「九州に九大の中野あり」の声高かつた。一昨年はメドラーズ対策委員として中央組織に名を連ね、昨年は日本科学技術情報センターの九州拠点の要員としてその活躍はめざましいものがあつた。

仕事面で鬼才であつた中野さんは、また人としても味わいの深い人であつた。運動に、囲碁将棋、麻雀は勿論、酒に至っては斗酒なお辞せずの酒豪、興いたれば共に歌い、共に踊りもする通人でもあつた。中野さんにまつわる思い出は限りなく尽きないが、異変当日のことに紙数を費やし過ぎてこれ以上多く語ることはできない。

ここに謹んで中野さんの御霊の御冥福をお祈りして筆をおきたい。

(にしむら・けんじ：医学分館受入掛長)

レファレンス・コーナー (その28)

—中央図書館情報資料掛—

中央図書館の情報資料掛(電・5310・5317)では、利用者の方々から寄せられてくるいろんな質問事項の調査を行なっていますが、ごく最近にあった質問のなかから幾つかを、ご参考のためにここへ挙げてみることにします。

質問1 J. Ass. off. analy. chem. 49, 1966. に掲載されている Van Soest, P. J. の論文を読みたいのだが、この雑誌タイトルからは所在がつかめない。

回答例 日本科学技術情報センター逐次刊行物所蔵目録(027.5/N77)と Ulrich's international periodicals directory (050.3/U62/14)で調査。この雑誌は、1~48巻(1965年刊)まで、Journal of the Association of official agricultural chemists であったものが、49巻(1966年刊)以後 Journal of the Association of official analytical chemists に誌名が変更されたものである。また Association of official analytical chemists. Journal. というタイトルで索引されていることもある。

質問2 漢字の音訓をかりて国語の音を表記した文字に万葉仮名があるが、その字音・字訓・戯訓などを知りたい。

回答例 日本国語大辞典(813.1/N77)がわかりやすい。各項のはじめに、万葉仮名があげてある。たとえば「い」の項では、い(伊夷怡以異已移易因印恣・射胆)ゐ(章爲位威謂萎委偉・井猪居)

質問3 <特許 48-40654, 野中さくたろう(電気関係)>の内容を知りたい。

回答例 特許庁から発行されている特許は、特許(公告)公報と、公開特許公報がある。特許(公告)公報は、特許公告制度にもとづいて、出願公告の決定したものを全文公告したものである。これに対して、公開特許公報は、昭和46年1月の制度改正にもとづいて同年7月より発行されているもので、出願されて1年半経過した公告未決定の特許を全文公開したものである。中央図書館が所蔵しているのは特許(公告)公報だけで、質問者の求めているものではない。福岡通商産業局(Tel. 431-1301)に照会してみたところ、“48-40654”は、公開特許公報に掲載されていることがわかった。

質問4 アメリカの National Science Foundation は、日米の共同研究を行っているところと聞いたが、この機関の内容および実施している研究の内容について知りたい。

回答例 The World of learning 1972-73 (060/W88)と学術月報(050/カ/20)で調査。NSF(米国科学財団)は、アメリカ合衆国の科学研究と科学教育等を助成することを目的として、1950年に創設された独立機関である。現在主な事業として、アメリカ南極研究計画(USARP)、国際海洋開発十年計画(IDOE)、国際地球大気開発計画(GARP)、国際生物学事業計画(IBP)、海洋堆積物コア採取計画(OSCP)などを管理運営している。日米間の科学協力事業としては、次の8部門を指定して実施している。(1)科学者の交流、(2)科学教育、(3)科学技術情報、(4)地球科学、宇宙科学および天文学、(5)生物科学、農学および医学、(6)数学、物理学および化学、(7)工学、(8)自然科学に関連する特殊課題。最近の事情等については、学術月報(Vol. 26, No. 1, p. 69)に詳しいので、それを参照するよう回答した。

質問5 日本数学会について知りたい。

回答例 専門情報機関総覧(和文編)'72(018/Se 69-1)で調査。親機関の概要、一般事項として主務者・職員数・年間経費・サービス対象範囲をはじめ、蔵書数、利用規程、親機関で発行されている逐次刊行物などが紹介されている。なお、この総覧には、国立機関・地方自治体・公共企業体・政府関係機関・学協会その他団体・民間企業体が約4,000機関紹介されている。

質問6 好き嫌いの、嫌う場合の表現に「すかん」という言葉がある。広辞苑で調べてもわからない。方言なのか。語源を知りたい。

回答例 女性語辞典(512/シ/29)で調査。好かん、「いやだわ」の意。宝暦ごろ大阪新町つちやの遊女たちが好んで使った言葉。それが今日でも用いられている。

調査報告

冬休みの長期館外貸出結果報告

中央図書館（理・農学部は除外）では、昨年12月10日(月)から25日(火)まで冬休みのための長期館外貸出を行なったが、その結果は下記の通りである。

文			教 育			法			経 済			理			医			歯		
人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書
149	245	6	18	30	1	132	193	3	47	70	0	135	196	4	0	0	0	0	0	0
薬			工			農			教 養			合 計								
人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書			
1	2	0	76	120	2	58	79	3	6	14	0	622	949	19						

(中央図書館閲覧課閲覧掛)

お知らせ

試験期の開館時間および定例休館日の変更について

後期の試験期になりましたので、中央図書館では開館時間を下記のように変更します。

1. 期間 2月4日(月)―3月16日(土)
(3月4―5日は除く)
 2. 時間 月曜日―金曜日 (9―19時)
土曜日 (9―14時)
- ただし、自由閲覧室は上記期間中
月曜日―金曜日 (9―17時)
土曜日 (9―12時)

なお、3月の定例休館日の1日(金)は3月27日(水)に変更します。

人事異動

48. 12. 28 中 村 禎 二 (参考掛技能補佐員) 退職
49. 1. 1 青 柳 良 輔 (久留米工業高等専門学校庶務課図書掛) 農学部図書掛へ

日 録 48.12.21～49.1.20

- | | |
|--|---|
| <p>12.21 OECD 出版物センターバーネット所長来館
1. 7 福岡県総務課渡辺邦男参事補佐来館
1. 8 福岡県文化会館図書部入江輝夫資料課長他 3名来館
1.10 九州産業大学図書館川村主任司書事務打合せ</p> | <p>のため来館
1.17 図書館商議委員会小委員会 (第7回) 於小会議室
1.17 第101回図書館商議委員会 於視聴覚室
1.19 図書館運営連絡会 (第1回) 於小会議室</p> |
|--|---|

編集委員 主査・東 米吉 委員・藁輪 武, 小野敏夫, 本多震一, 八尋重久, 岩井 護, 浅香雄一 (中央図書館) 福永寿夫 (医学分館) 堺 弘 (教養部分館) 西嶋 武 (文) 重松多喜造 (理) 明石平次郎 (工) 平川友視 (農) 河上 保 (産研)

九州大学附属図書館月報「図書館情報」Vol. 10, No. 1. (通巻93号)

1974年1月25日発行・発行人 中 村 讓

発行所 九州大学附属図書館・福岡市東区大字箱崎 3576・〒811②・電話代表 ④ 1101 内 線5301